

小児がん拠点病院 現況報告書

令和3年9月1日時点について記載

チェック欄に未
入力なし

病院名	名古屋大学医学部附属病院													
よみがな	なごやだいがくいがくぶふぞくびょういん										✓			
郵便番号	〒	466-8560									✓			
住所	愛知県	名古屋市昭和区鶴舞町65番地									✓			
よみがな	なごやししょうわくつるまいちょう65ばんち										✓			
電話(代表)	052-741-2111										✓			
FAX(代表)	052-744-2785													
e-mail(代表)														
HPアドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/													
診療科	開設診療科数	34									✓			
	診療科名(具体的に記載)	内科、精神科、脳神経内科、小児科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、心臓外科、循環器内科、小児外科、呼吸器内科、消化器内科、呼吸器外科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、児童精神科、乳腺・内分泌外科、移植外科、血管外科、老年内科、救急科、病理診断科、リハビリテーション科、リウマチ科									✓			
	外来診療受付時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	30	分	～	11	時	00	分	✓
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	外来診療時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	9	時	00	分	～	17	時	00	分	✓
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	休診日	毎週 土・日曜日、その他(祝日・年末年始)										✓		
	初診時の予約	すべての診療科で必要 (すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)										✓		
	初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要 (すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)										✓		
病床数	総病床数	1,080	床								✓			

診療実績 (令和2年1月1日～12月31日)
年間入院患者延べ数 ※1

2,734 人

✓

年間入院小児がん患者延べ数 ※1	777	人	✓
年間入院患者延べ数に占める小児がん患者の割合	28.4	%	
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	21,824	日	✓
外来小児がん患者延べ数 ※3	5,152	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者実数 ※4	4	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者延べ数 ※5	22	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者延べ数 ※6	80	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関実数 ※7	47	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者延べ数 ※8	20	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関実数 ※7	12	機関	✓

※1 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者の総数(延べ数)を計上する。当該年に同一患者が2回入院した場合は2人と
 ※2 初診日や初発・再発に関わらず、当該年に入院した小児がん患者の入院患者数の延べ数で計上する。入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1日として計上する。

※3 診断時18歳以下を対象とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※4 診断時18歳以下を対象とし、総数(実数)を計上する。終末期の患者だけではなく、緩和ケアチームが検討した結果、診察・薬剤・リハビリなど診療行為の対象となった患者を含むが、カンファレンスのみを行い、実際の診療行為が行われていない患者は含まない。

※5 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、当該年に2回セカンドオピニオンを行った患者は、2人と計上する。

※6 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、フォローアップ目的の照会を含む。

※7 重複のない実数を計上する。

※8 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、紹介時には18歳を超えていても構わないが、がんに関連しない疾患での紹介(齲歯に対する歯科診療など)は含めない。転院目的での紹介は含むが、同時期に複数病院へ同一内容で紹介した場合は1人と計上する(同時期に異なる内容で紹介または異なる時期に同一内容で紹介の場合は別で計上する)。

小児がんに関する専門外来の名称

小児科外来、長期フォローアップ外来、外来化学療法室

✓

職員数

総数(事務職員を含む)

2,266 人

✓

人数 うち常勤(※)

医師

1,072 504

✓

歯科医師

48 13

✓

薬剤師

114 113

✓

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはならない。

保健師
看護師
准看護師
理学療法士
作業療法士
視能訓練士
言語聴覚士
義肢装具士
診療放射線技師
臨床検査技師
衛生検査技師
臨床工学技士
管理栄養士
栄養士
社会福祉士
精神保健福祉士
介護福祉士
保育士
その他の職種

0	0
1,132	1,105
1	1
36	36
9	9
12	11
7	7
0	0
73	73
81	72
0	0
40	40
9	9
0	0
11	11
2	2
0	0
3	3
0	0

みなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
日本小児血液・がん学会 指導医
日本小児血液・がん学会 暫定指導医
日本小児血液・がん学会 認定外科医
日本小児外科学会 専門医
日本小児外科学会 指導医
日本小児科学会小児科 専門医
日本小児神経学会 小児神経専門医
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
日本病理学会 病理専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本放射線腫瘍学会・公益社団法人 日本医学放射線学会
共同 放射線治療専門医
公益社団法人日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本緩和医療学会 緩和医療専門医
日本緩和医療学会 緩和医療認定医

3	3
1	1
1	1
4	4
6	6
0	0
44	44
3	3
43	16
6	6
17	13
49	39
5	4
23	21
1	1
6	5

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 がん看護専門看護師
 日本看護協会 小児看護専門看護師
 日本看護協会 地域看護専門看護師
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師
 日本臨床細胞学会 細胞検査士
 日本医学放射線学会 医学物理士
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士
 一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士
 一般社団法人日本人類遺伝学会
 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー
 一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
 チャイルドライフスペシャリスト
 ホスピタルプレイスペシャリスト

3	3
1	1
0	0
2	2
0	0
1	1
0	0
3	3
3	3
1	1
5	5
4	4
4	4
4	4
3	3
1	1
3	3
0	0
3	3
0	0

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

1 診療体制			A : 必須 B : 望ましい - : 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない			チェック欄に未入力なし	Aの充足状況
(1)診療機能								
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供								
ア	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	8	✓	○	
	専門とするがんについて別紙1に記載すること。		別紙1		9			
イ	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めている、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。	A	はい	(はい／いいえ)	10	✓	○	
	カンサーボードの開催回数（令和2年1月1日～12月31日）	-	51	回	11	✓		
ウ	小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	12	✓	○	
	長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	-	はい	(はい／いいえ)	13	✓		
エ	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	15	✓	○	
オ	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	17	✓	○	
カ	治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。	B	はい	(はい／いいえ)	18	✓		
	がんの治療に際する妊孕性温存治療を自施設で実施できる	-	はい	(はい／いいえ)	19			
キ	生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙2に記載すること。		別紙2		20			
	保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	21	✓	○	
② 薬物療法の提供体制								
	薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。	A	はい	(はい／いいえ)	23	✓	○	
③ 緩和ケアの提供体制								
ア	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	26	✓	○	
	緩和ケアチームの組織・体制について別紙3に記載すること。		別紙3		27			

イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。 緩和ケア外来について別紙4に記載すること。	B	はい	(はい／いいえ)	29	☒	
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。 緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(令和2年1月1日～12月31日)	A	はい	(はい／いいえ)	31	☒	☐
		-	51	回	32	☒	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。 情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	A	はい	(はい／いいえ)	33	☒	☐
		-	院内掲示、医療機関のWebサイトに掲載		34		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	35	☒	☐
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。 緩和ケア病棟について別紙5に記載すること。	B	はい	(はい／いいえ)	36	☒	
			別紙5		37		
④ 病病連携・病診連携の協力体制					38		
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	39	☒	☐
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい／いいえ)	41	☒	☐
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	いいえ	(はい／いいえ)	42	☒	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	いいえ	(はい／いいえ)	43	☒	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制					44		
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。 セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙6に記載すること。	A	はい	(はい／いいえ)	45	☒	☐
			別紙6		46		
⑥ その他					47		
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	48	☒	
(2)診療従事者					49		
用語の定義: 専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。					50		

① 専門的な知識および技能を有する医師の配置			51		
ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	23	人 1人以上	52	✓ ○
放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	21	人	53	✓
イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	12	人	54	✓
薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	12	人 1人以上	55	✓ ○
薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	9	人	56	✓
薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	10	人	57	✓
薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	8	人	58	✓
ウ 緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	2	人 1人以上	59	✓ ○
緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	60	✓
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人 1人以上	61	✓ ○
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	62	✓
緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	3	人	63	✓
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	64	✓
受講率	-	100.0	%	65	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	66	✓
受講率	-	0.0	%	67	
小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	53	人	68	✓
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	49	人	69	✓
受講率	-	92.5	%	70	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	14	人	71	✓
受講率	-	26.4	%	72	
エ 病理診断に携わる医師の人数。	-	21	人	90	✓
病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	6	人 1人以上	91	✓ ○
病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	6	人	92	✓
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置			93		
ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	14	人 1人以上	94	✓ ○
放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	14	人	95	✓
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	2	人 1人以上	96	✓ ○
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	2	人	97	✓
イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	13	人	98	✓
薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	12	人 1人以上	99	✓ ○
ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	5	人	100	✓
緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	2	人 1人以上	101	✓ ○
緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	3	人	102	✓
緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	4	人	103	✓
エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	4	人	104	✓

オ	小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	13	人	105	☒	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	1	人	106	☒	
カ	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	8	人	107	☒	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	3	人	108	☒	
	小児科領域に関する専門的知識を有する社会福祉士の人数	-	2	人	109	☒	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	3	人	110	☒	
③ その他							
ア	小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	112	☒	
イ	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい/いいえ)	113	☒	○
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)	114	☒	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい/いいえ)	115	☒	
(3) 医療施設							
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置							
ア	放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい/いいえ)	118	☒	○
イ	集中治療室を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	119	☒	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集中治療室(ICU)の数	-	40	床	120	☒	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集中治療室(PICU)の数	-	0	床	121	☒	
ウ	小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)	122	☒	○
	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙7に記載すること。		別紙7		124		
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(令和2年1月1日～12月31日)	-	30	回	125	☒	
② 敷地内禁煙等							
	敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)	127	☒	○
	敷地内は全面禁煙である。	-	はい	(はい/いいえ)	128	☒	
(4) 診療実績							
①	小児がんについて年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	130	☒	○
②	固形腫瘍について年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	131	☒	○
③	造血器腫瘍について年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	132	☒	○
	診療実績等について別紙1および別紙8に記載すること。		別紙1・別紙8		133		

(5)その他				134		
① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	135	✓	○
		はい	(はい/いいえ)	136	✓	
		はい	(はい/いいえ)	137	✓	
② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	138	✓	○
		はい	(はい/いいえ)	139	✓	
		はい	(はい/いいえ)	140	✓	
③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい	(はい/いいえ)	141	✓	○
		はい	(はい/いいえ)	142	✓	
		はい	(はい/いいえ)	143	✓	○
		はい	(はい/いいえ)	144	✓	
配置している上記研修会を受講した医師の人数				A	6	人
配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数				-	7	人
2 研修の実施体制						
小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。				A	はい	(はい/いいえ)
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙9に記載すること。					別紙9	
3 情報の収集提供体制						
(1)相談支援センター						
小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。				A	はい	(はい/いいえ)
広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のWebサイトに掲載)				-	院内掲示、医療機関のWebサイトに掲載	
相談支援センターの体制について別紙10に記載すること。					別紙10	
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙11に記載すること。					別紙11	
① 「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。				A	はい	(はい/いいえ)
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。				A	はい	(はい/いいえ)
③ 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。				A	はい	(はい/いいえ)
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。				B	はい	(はい/いいえ)
小児がん患者団体等との連携について別紙12に記載すること。					別紙12	

相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。（相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。）				160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	（はい／いいえ）	161	✓	○
アの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	1	件	162	✓	
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	（はい／いいえ）	163	✓	○
イの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	3	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	（はい／いいえ）	165	✓	○
ウの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	3	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	（はい／いいえ）	167	✓	○
エの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	164	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	9	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	（はい／いいえ）	170	✓	○
オの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	200	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	（はい／いいえ）	172	✓	○
カの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	2	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	（はい／いいえ）	174	✓	○
キの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	1	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	（はい／いいえ）	176	✓	○
クの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	39	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	（はい／いいえ）	178	✓	○
ケの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	4	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することをやっている。	A	はい	（はい／いいえ）	180	✓	○
コの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）	-	344	件	181	✓	
(2)院内がん登録				182		
① がん登録等の推進に関する法律（平成25年法律第111号）第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針（平成27年厚生労働省告示第470号）に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	（はい／いいえ）	183	✓	○
② 院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	（はい／いいえ）	184	✓	○
③ 院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	1	人 1人以上	185	✓	○
うち専従者の人数	-	1	人	186	✓	
配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	（はい／いいえ）	187	✓	○
④ 院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	（はい／いいえ）	188	✓	○
⑤ 適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	（はい／いいえ）	189	✓	

⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい／いいえ)	190	☒	
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい／いいえ)	191	☒	
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要な情報を提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	192	☒	☐
(3) 診療実績、診療機能等の情報提供					193		
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	194	☒	☐
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	院内掲示、医療機関のWebサイトに掲載		195		
4 臨床研究に関すること					198		
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい／いいえ)	199	☒	☐
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい／いいえ)	200	☒	☐
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい／いいえ)	201	☒	☐
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	院内掲示、医療機関のWebサイトに掲載		202		
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい／いいえ)	203	☒	☐
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	院内掲示、医療機関のWebサイトに掲載		204		
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい	(はい／いいえ)	205	☒	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	院内掲示、医療機関のWebサイトに掲載		206		
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい／いいえ)	207	☒	
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)	208		
(5)	臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B	はい	(はい／いいえ)	210	☒	
	臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	19	人	211	☒	
	臨床研究の問い合わせ窓口について別紙13に記載すること。		別紙13		212		
	臨床研究の実施総件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	29	件	213	☒	
	臨床試験以外の臨床研究実施総件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	28	件	214	☒	
	治験の実施総件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	1	件	215	☒	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備					216		
(1)	保育士を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	217	☒	☐
	保育士の人数	-	3	人	218	☒	
	保育士のうち常勤の人数	-	3	人	219	☒	

(2)	病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	220	✓	○
	特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい／いいえ)	221	✓	
	特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	222	✓	
	病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	223	✓	
	高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	224	✓	
(3)	退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	225	✓	○
(4)	子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	227	✓	○
	AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい／いいえ)	228	✓	
(5)	家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい／いいえ)	229	✓	○
	部屋数	-	12	部屋	230	✓	
	長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	231	✓	
	長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙14に記載すること。		別紙14		232		
(6)	家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	233	✓	○
(7)	患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい／いいえ)	234	✓	
6 PDCAサイクル					235		
(1)	自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい／いいえ)	236	✓	○
	把握・評価の方法、改善策等について別紙15に記載すること。		別紙15		237		
(2)	これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	238	✓	○
	地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のWebサイトに掲載		239		
7 医療安全体制					240		
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	241	✓	○
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	242	✓	○
(3)	医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい	(はい／いいえ)	243	✓	○
(4)	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	244	✓	
	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。				245		
	① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	246	✓	○
	② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい	(はい／いいえ／-)	247	✓	○
	③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	248	✓	○
(5)	医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	249	✓	○
	医療安全体制について別紙16に記載すること。		別紙16		250		

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄に未入力なし

小児脳腫瘍

○（○：専門とするがん／×：診療を実施していないがん）

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和3年9月1日現在（実績は令和2年1月1日～12月31日）

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数													各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)				治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1	小児科	55	15	×	○	○	○	○	×				脳神経外科の先生と協力して大量化学療法、自家末梢血幹細胞移植を含む集学的治療を行っています。	名古屋大学医学部・大学院 医学系研究科 小児科学	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical/laboratory/clinical-med/growth-aging/pediatrics/	掲載なし	掲載なし	掲載あり	
2	脳神経外科	48	3	○	○	○	○	○	×				治療困難な悪性脳腫瘍に対しては、末梢血幹細胞移植を併用した大剂量化学療法にも対応している。東海小児脳腫瘍研究会を立ち上げて、希少疾患の治療成績の向上に務めている。	小児脳腫瘍	https://med-nagoya-neurosurgery.jp/intro/group/group1#grp03	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3														東海小児脳腫瘍研究会	https://med-nagoya-neurosurgery.jp/intro/group/group7				
4	放射線科	38	5	×	×	○	○	○	×	×			小児科の先生方と密に情報共有を行いながら治療を行っています。陽子線治療などの当院では行っていない治療の情報提供も承ります。	名古屋大学医学部附属病院 放射線部	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/radiology/	掲載あり	掲載なし	掲載なし	
5	化学療法部	10	8	×	○	×	×	×	×				がん薬物療法を専門とする医師が臓器別の診療科と協力して質の高い治療を行っています。	名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 独自HP「外来化学療法室」	https://med-nagoya-u-chemo.com/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容							
他の治療(1)																			
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)						びまん性橋髄腫(DIPG)、胚細胞腫、膠芽腫、毛様細胞性星細胞腫、視神経髄腫、髄芽腫、神経髄腫、神経芽腫、髄膜種、胚細胞腫瘍、上衣腫													

小児の眼・眼窩腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数														各診療科における当該疾患の治 療の特色・患者さんへのメッセージ など	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている医 師数	手術	冷凍 凝固術	光凝固 術	化学 療法	眼動注	放射線療法			陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記その他の治療法欄と 合わせてください			※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容			
								体外 照射	IMRT	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)							他の 治療(3)
								見出し	アドレス	治療 内容		治療 実績	医師の 専門 分野							
1	眼科	29	1	○	○	○			○											
2																				
3																				
4																				
5																				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名					治療内容											
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)				網膜芽細胞腫																

小児悪性骨軟部腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数														各診療科における当該疾患の治 療の特色・患者さんへのメッセージ など	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ての医 師数					化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	重粒子 線治療	※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください			掲載されている内容						
			切・離断 術	患肢 温存術	再建術	骨移植 術		体外 照射	小線源 治療			他の 治療(1)	他の 治療(2)		他の 治療(3)	治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野			
1	小児科	55	15	×	×	×	×	○	○	×	×	×				整形外科の先生と協力して、大量化学療法、自家末梢血幹細胞移植を含む集学的治療をおこなっております。	名古屋大学医学部・大学院 医学系研究科 小児科学	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical/4/laboratory/clinical-med/growth-aging/pediatrics/	掲載なし	掲載なし	掲載あり
2																小児がん治療センター	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kyoten/ped-cancer/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3	整形外科	40	6	○	○	○	○	○	○	×	×	×				各科と連携して高度な集学的治療を実施しています。患肢温存手術の実施、関節機能温存をめざした生物学的再建、脚長差補正のための脚延長術などにより、患肢の術後機能向上を図っています。	名古屋大学大学院医学系研究科 整形外科/手の外科学/リウマチ学	http://meidai-seikei.jp/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
4	放射線科	38	5	×	×	×	×	×	○	×	×	×				小児科の先生方と密に情報共有を行いながら治療を行っております。陽子線治療などの当院では行っていない治療の情報提供も承ります。	名古屋大学医学部附属病院 放射線部	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/radiology/	掲載あり	掲載なし	掲載なし
5	化学療法部	10	8	×	×	×	×	○	×	×	×	×				がん薬物療法を専門とする医師が臓器別の診療科と協力して質の高い治療を行っています。	名古屋大学医学部附属病院 診療科のご紹介 化学療法部	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/chemo/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名								治療内容									
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)				Ewing肉腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫、骨肉腫、滑膜肉腫、骨腫瘍																	

その他の小児固形腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数												各診療科における当該疾患の治 療の特色・患者さんへのメッセージ など	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医 師 数	当該疾 患を専 門とし ている 医 師 数	手術	化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容					
					体外 照射	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)	治療 内容		治療 実績	医師の 専門 分野				
1	小児科	55	15	×	○	○	×	×				小児外科、放射線科の先生と協力して、大量化学療法、自家末梢血幹細胞移植など集学的治療を行っております。	名古屋大学医学部・大学院 医学系研究科 小児科学	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_4/laboratory/clinical-med/growth-aging/pediatrics/	掲載なし	掲載なし	掲載あり	
2	小児外科	8	8	○	○	○	×	×				他科との連携をとり、集学的な治療を行っています。	名古屋大学医学部附属病院 小児外科	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/pediatric-s/	掲載なし	掲載なし	掲載なし	
3													名古屋大学医学部・大学院医学系研究科 小児外科	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_4/laboratory/clinical-med/surgery/pediatric-surg/	掲載なし	掲載なし	掲載あり	
4	放射線科	38	5	×	×	○	×	×				小児科の先生方と密に情報共有を行いながら治療を行っております。陽子線治療などの当院では行っていない治療の情報提供も承ります。	名古屋大学医学部附属病院 放射線部	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/radiology/	掲載あり	掲載なし	掲載なし	
5	化学療法部	10	8	×	○	×	×	×				がん薬物療法を専門とする医師が臓器別の診療科と協力して質の高い治療を行っています。	名古屋大学医学部附属病院 診療科のご紹介 化学療法部	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/chemo/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容						
他の治療(1)																		
他の治療(2)																		
他の治療(3)																		
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)						神経芽腫、横紋筋肉腫、肝芽腫、腎腫瘍、Wilms腫瘍、神経芽細胞腫、奇形腫、脂肪腫、腎芽腫												

小児血液腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数														各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			掲載されている内容				
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)				治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1	小児科	55	15	○	○	○	○	○				大量化学療法、同種造血幹細胞移植もふくめ治療が可能です。	名古屋大学医学部・大学院 医学系研究科 小児科学	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_3/laboratory/clinical-med_growth-aging_pediatrics/	掲載なし	掲載なし	掲載あり		
2													小児がん治療センター	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kyoten/ped-cancer/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3	放射線科	38	5	×	×	×	×	○	○			小児科の先生方と密に情報共有を行いながら治療を行っています。陽子線治療などの当院では行っていない治療の情報提供も承ります。	名古屋大学医学部附属病院 放射線部	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/radiology/	掲載あり	掲載なし	掲載なし		
4													名古屋大学・大学院医学系研究科 量子医学・量子介入 治療学(放射線医学)	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_3/laboratory/clinical-med_high-technology/radiology/	掲載なし	掲載なし	掲載あり		
5	化学療法部	10	8	○	×	×	×	×	×			がん薬物療法を専門とする医師が臓器別の診療科と協力して質の高い治療を行っています。	名古屋大学医学部附属病院 診療科のご紹介 化学療法部	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/chemo/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名								治療内容							
他の治療(1)																			
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)				骨髄異形成症候群、急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、芽球形質細胞様樹状細胞腫瘍(BPCDN)、若年性骨髄単球形白血病(JMML)、混合形質性急性白血病(MPAL)、免疫不全症、悪性リンパ腫															

生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和3年9月1日現在（実績は令和2年1月1日～12月31日）

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数（令和2年1月1日～12月31日）	12
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵（胚）、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数（令和2年1月1日～12月31日）	15
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術（Onco-TESE）を行った患者の人数（令和2年1月1日～12月31日）	0

OK

■がん患者の妊孕性温存に関する連携協力体制について記載すること。

①相談に対応している部署（例：がん相談支援センター、化学療法室等）

がん生殖医療相談外来、がん相談支援センター

（複数回答可）

②がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数（令和2年1月1日～12月31日）

1

③紹介先施設名

三重大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院

（複数回答可）

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。（他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること）

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙2を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

（あり／なし）

ファイル形式

パワーポイント

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和3年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数：

13

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

OK

緩和ケアチームの名称		緩和ケアチーム		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	作業療法士	常勤	がん・小児・新生児リハビリ	がんリハビリテーション/緩和ケア研修
2	作業療法士	常勤	がん・小児・脳血管リハビリ	がんリハビリテーション研修
3	看護師（2名）	常勤		がん看護専門看護師（1）
4	看護師	非常勤		がん性疼痛看護認定看護師
5	看護師（2名）	非常勤		小児看護専門看護師
6	薬剤師（2名）	常勤	がん・緩和薬物療法	
7	薬剤師	常勤	がん・緩和薬物療法	緩和薬物療法認定薬剤師、がん専門薬剤師、がん指導薬剤師
8	身体症状の緩和に携わる医師	常勤	化学療法部	日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 日本緩和医療学会専門医
9	身体症状の緩和に携わる医師	非常勤	化学療法部	
10	精神症状の緩和に携わる医師	常勤	化学療法部（精神科）	

緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和3年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										はい
2	緩和ケア外来の名称		緩和ケア外来								
3	担当診療科名		化学療法部								
4	主な診療内容・特色		主科から依頼があれば、タイムリーに診療ができる。								
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し	化学療法部 緩和ケアチーム							
			アドレス	https://med-nagoya-u-chemo.com/care							
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										いいえ
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい
	窓口の名称		地域連携・患者相談センター								
	電話	代表	052-741-2111	（内線）				直通			
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい
	窓口の名称		地域連携・患者相談センター								
	電話	代表	052-741-2111	（内線）				直通			

OK

OK

OK

緩和ケア病棟の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名：

名古屋大学医学部附属病院

時期・期間： 令和3年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している					
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理					
3	小児の入院可否					
4	緩和ケア病棟の形式					
5	緩和ケア病棟の病床数		床			
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し				
		アドレス				
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数（人） ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	（例） 医師	2	（例） 精神保健福祉士	1	

10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス						
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス						
12	緩和ケア病棟の設備	例：家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム（食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある）、特殊入浴室									
13	訪問看護ケアの有無	例：自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など									

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和3年9月1日現在（実績は令和2年1月1日～12月31日）

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来について	アドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/outpatient/secondopinion/		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 （実績）	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 （対応可／対応不可）	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	5	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 （専門：○/専門外：×）	当該疾患の専門分野（専門：○/専門外：×）			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	○	○	良性腫瘍、悪性腫瘍担当、先進医療（遺伝子解析）、治験担当
2人目	脳神経外科	○	○	○	○	良性腫瘍、悪性腫瘍担当、先進医療（遺伝子解析）、治験担当
3人目	脳神経外科	○	○	○	○	良性腫瘍、悪性腫瘍担当、先進医療（遺伝子解析）、治験担当
4人目						
5人目						

OK

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 （対応可／対応不可）	対応不可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 （専門：○/専門外：×）	当該疾患の専門分野（専門：○/専門外：×）			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目						
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	整形外科	○	○	○	○	
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	15	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	×	○	×	
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	2	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	×	○	×	
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和3年9月1日現在

語り合うための場総件数：5

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ /家族のみ /患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター	XXX-XXX-XXXX直通
1	中高生の会	名大病院小児科	あり	定期	月 2	すべての小児がん	参加不可	患者のみ	ボードゲームや映画などのレクリエーションや勉強会。またそれらを通した同年代の交流、気持ちの表出、ピアサポートの場になっている。	名称	電話番号
2	きょうだいの会	名大病院小児科	あり	定期	年 2	すべての小児がん	参加不可	患者・家族	工作、レクリエーション、院内見学、クイズなどを通して、きょうだいと一緒に医療への理解を深める場になっている。	名称	電話番号
3	クロワッサンス	名大病院	あり	定期	年 2	小児がん・血液疾患	参加不可	患者のみ	小児がん・血液疾患の経験者が集まり、勉強会や交流会を開催。18歳以上を対象としており、AYA世代経験者のピアサポートの場になっている。	名称	電話番号
4	10歳からのきょうだい会	名大病院小児科	あり	定期	年 2	すべての小児がん	参加不可	家族のみ	10歳以上のきょうだいを対象としたピアサポートの場。きょうだいが気持ちを語り合う場になっている。	名称	電話番号
5	NPO法人 脳腫瘍ネットワーク	名大病院脳神経外科	あり	定期	年 1	小児脳腫瘍	参加可	患者・家族	NPO法人脳腫瘍ネットワーク(脳神経外科)	名称	電話番号
6										名称	電話番号
7										名称	電話番号
8										名称	電話番号
9										名称	電話番号
10										名称	電話番号

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称	院内患者図書館						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	院内患者図書館(つくし文庫)					
		アドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/facilities/library/					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他	新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は利用中止				
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
		0	50冊以上	0	0			
		制限なし	制限なし	制限なし	制限なし			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置なし		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	052-741-2111		(内線)			
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		ボランティア(2名や4名で対応する日もあり)	3	人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書等が設置されている場の名称	患者情報センター（ナディック）						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	患者情報センター（ナディック）					
		アドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/facilities/nadic/					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他	新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は利用中止				
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
		100冊以上	100冊以上	50種類以上	100種類以上	100種類以上	100種類以上	
		貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置あり		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	052-741-2111		(内線)			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		ボランティア	30	人	がん相談員		2	人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施						

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：名古屋大学医学部附属病院

	年間新規症例数(※) (令和2年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (令和2年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	26	固形腫瘍合計	61
ALL	8	神経芽腫瘍群	16
AML	1	網膜芽腫	0
まれな白血病	4	腎腫瘍	2
MDS／MPDのうちCML	0	肝腫瘍	4
MDS／MPDのうちCMLを除く	1	骨腫瘍	5
Non-Hodgkin Lymphoma	1	軟部腫瘍	5
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	9
その他のリンパ増殖性疾患	0	脳・脊髄腫瘍	19
組織球症(HLH)	2	その他(診断名も記載すること)	脾腫瘍
組織球症(LCH)	5		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	2		
Down症TAM 登録	2		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和3年9月1日現在

(研修会等の回数は令和2年1月1日～12月31日)

■研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	30
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	10
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	2
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	17
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	1

OK

■研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数：

4

OK

プログラム名		期間	対象者	R1 年度 (人)	R2 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先				プログラムの特徴	
		例 2年	例 医師卒後 〇年～〇年				自施設 (人)	自施設以外				
								大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)		その他 (人)
1	短期小児がん研修プログラム	1-2カ 月	医師卒後 4年～8年	17	15	94	29	3	10	48	4	小児血液悪性腫瘍・固形腫瘍および 造血幹細胞移植の臨床研修を行う。
2	長期がん研修プログラム	3-12 カ月	医師卒後 4年～8年	2	1	7	2	3	1	1	0	小児血液悪性腫瘍・固形腫瘍および 造血幹細胞移植の臨床研修を行う。
3	脳腫瘍研修プログラム	3カ月	医師卒後 6年目	16	18	60	5	0	0	55	0	脳腫瘍症例の術前術後の管理及び手術 手技等を豊富な症例から実地で学べる。
4	脳腫瘍研究	2年	医師卒後 8年目	4	8	11	2	0	0	9	0	脳腫瘍の高度な基礎研究及び臨床研究を 実施し、博士号取得を目指す。
5												

相談支援センターの体制、相談件数と相談支援内容

記載の有無 あり #REF!

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 名古屋大学医学部附属病院

時期・期間: 令和3年9月1日現在

	職種	常勤／非常勤	専従/専任/兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
					基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	15	受講	受講	受講	受講
2	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	13	受講	受講	未受講	受講
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

● 年間の相談総件数(令和2年1月1日～12月31日)

761 件

OK

上記1件あたりの平均対応時間

平均 32 分

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	750
2	他施設の患者・家族	11
	合計	761

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	学校間との連携(長期入院した後でも、復学や進学をしやすい環境づくりをしています)	自施設の患者・家族
2	様々な福祉制度の案内(小児慢性特定疾病や特別児童扶養手当などの説明)	自施設と他施設の患者・家族
3	退院後の療養環境調整(リハビリ先の紹介、福祉用具案内、訪問診療、訪問看護の導入等)	自施設の患者・家族
4	小児がんに関する一般的な情報提供	自施設と他施設の患者・家族
5	AYA世代への長期フォローアップ	自施設の患者・家族

相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

※成人の拠点病院現況報告書の様式と同様で、コピーペーストが可能です。 病院名: 名古屋大学医学部附属病院

時期・期間: 令和3年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	地域連携・患者相談センター/がん相談支援センター					OK	
2	問い合わせ先電話番号	052-741-1976	(内線)					
3	■対面相談の実施（実施/未実施）	実施						OK
	予約の要否（必要/不要）	不要						
	■電話相談の実施（実施/未実施）	実施						
	電話番号	052-741-1976	(内線)					
	予約の要否（必要/不要）	不要						
4	■FAX相談の実施（実施/未実施）	未実施						OK
	FAX番号							
	■電子メール相談の実施（実施/未実施）	未実施						OK
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください							

小児がん患者団体との連携

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：名古屋大学医学部附属病院

時期・期間：令和2年1月1日～12月31日

小児がん患者団体との連携（患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等）があれば記載すること。

連携協力している小児がん患者団体			具体的な連携の内容 (例：月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名	団体の参加対象者		
1	(財)がんの子供を守る会	小児がんの子どもを持つ親	定期的に情報共有を行っている。
2	小児がん経験者WISH	小児がん経験者	長期フォローアップの必要のある方に紹介している。
3	しぶたね	小児がん患児の兄弟支援	きょうだいの会の開催についての情報交換
4	とまり木	当院小児血液腫瘍患者の親の会	年2回、当院にて親の会を開催。院内スタッフも参加している。
5	クロワッサンス	当院小児血液腫瘍経験者の会	年1回、当院にて研修会を開催。院内スタッフも参加している。
6	STAND UP！！	小児がん経験者	会の代表者との交流。
7			
8			
9			
10			

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 名古屋大学医学部附属病院

時期・期間: 令和3年9月1日現在

【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口

■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					臨床試験(治験を除く)専用の窓口がある				
※臨床試験専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
1	窓口の名称		先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センター 臨床研究支援部門						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究中核病院について						
		アドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/others/clinical-research/corh/						
	電話	代表	052-741-2111			(内線)	1956		
		直通	052-744-1956						
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					臨床試験(治験を除く)専用の窓口がある				
※臨床試験専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
2	窓口の名称		先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センター 臨床研究支援部門						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究中核病院について						
		アドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/others/clinical-research/corh/						
	電話	代表	052-741-2111			(内線)	1956		
		直通	052-744-1956						

【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口

■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について						相談支援センターが窓口となっている				
※臨床研究専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し								
		アドレス								
	電話	代表					(内線)			
		直通								
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						相談支援センターが窓口となっている				
※臨床研究専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し								
		アドレス								
	電話	代表					(内線)			
		直通								

【治験】の問い合わせ窓口

■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある				
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
1	窓口の名称		先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センター 臨床研究支援部門			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	臨床研究中核病院について		
			アドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/others/clinical-research/corh/		
	電話		代表	052-741-2111	(内線)	1956
		直通	052-744-1956			
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある				
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
2	窓口の名称		先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センター 臨床研究支援部門			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	臨床研究中核病院について		
			アドレス	https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/others/clinical-research/corh/		
	電話		代表	052-741-2111	(内線)	1956
		直通	052-744-1956			

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 名古屋大学医学部附属病院

時期・期間: 令和3年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙14を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

2013年11月名古屋大学医学部附属病院敷地内にオープンした『ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや』は、自宅と同じように過ごせるよう、ベッドルーム(27.0㎡×10室、45.9㎡×2室)、キッチン(2室合計41.12㎡)、リビング(23.71㎡)、ダイニング(63.92㎡)、ランドリー(14㎡)、プレイルーム(11.73㎡)、図書等完備の多目的室(57.27㎡)を備え、ハウス内はWi-Fi(無線LAN)が設置されており、同じような病気の子どもの持つ母親同士のコミュニケーションの場を提供する環境を備えている。名古屋大学病院敷地内に設置されているが、近隣病院の小児入院患者及び家族等も使用可能となっており、地域の財産として活用する共同施設となっている。約150人のボランティアにより運営されている。

『ドナルド・マクドナルド・ハウス 名古屋』見取り図



『ドナルド・マクドナルド・ハウス 名古屋』施設内設



(ベッドルーム)



(コインランドリー)



(プレイルーム)



(多目的室)



(リビング)



(ダイニング)

PDCAサイクルについて

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: **名古屋大学医学部附属病院**

時期・期間: 令和3年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している **はい** (はい/いいえ)
- ②院内誌、チラシ等で広報している **はい** (はい/いいえ)
- ③ホームページに掲載している **はい** (はい/いいえ)
- ④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

http://www.med.nagoya-u.ac.jp/kyoten/cancer/medical_pro/pdca.php#cont

- ⑤地域の広報誌等で広報している **はい** (はい/いいえ)
- ⑥その他の方法で掲載している **はい** (はい/いいえ)
- ⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

https://hospdb.ganioho.jp/kyoten/childdetail?hospital_id=C23007

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 化学療法によるB型肝炎再活性化への対策	入院・外来化学療法施行患者の100%がB型肝炎のスクリーニング検査を実施する。	6か月おきにスクリーニング検査の実施率を評価する。
2 抗がん剤投与におけるインラインフィルターの適切な使用	インラインフィルター使用時のインシデント発生率を0にする。	インシデント報告の有無を適宜評価する。
3 抗がん剤投与時の曝露対策	スタッフのPPE着用を100%徹底する。	遵守率を評価する。
4 血管外漏出時の適切な対応	抗がん剤の血管外漏出時に適切な対応ができる。	インシデント報告の有無を適宜評価する。
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	2015年10月より入院・外来化学療法施行患者の全患者にスクリーニングを実施することを院内に周知
2	フィルターが必須の薬剤および不可な薬剤についてレジメンにコメントを組み込み、院内に周知
3	マニュアルの作成とスタッフ教育
4	マニュアルの作成とスタッフ教育
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙15を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

- 別添資料の提出有無 **あり** (あり/なし)
- ファイル形式 **PDF** (ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)
- その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK
OK
OK

OK
OK

OK

医療安全体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 名古屋大学医学部附属病院

時期・期間: 令和3年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報を記載しないよう注意すること。

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、当該医療機関が定める1週間の就業時間のすべてを勤務している者をいいます。ただし、当該医療機関が定める就業時間が32時間に満たない場合は常勤とみなしません。〔医療法第21条の規定に基づく人員の算出に当たっての取扱い等について〕(平成10年6月26日付け健政発第777号・医薬発第574号、厚生省健康政策局長・医薬安全局長連名通知)の別添「常勤医師等の取扱いについて」を参照)

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

OK

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全推進部					
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー				医療安全に関する研修の受講状況(注4)			
	職種	常勤 /非常勤	専従/専任/兼任	受講した研修名	研修主催者名	修了日	
1	部門長	医師	常勤	専従(8割以上)	2019年度特定機能病院管理者研修 (継続・1日間)	日本医療機能評価機構	2019/10/11
2		医師	常勤	専従(8割以上)	明日の医療の質向上をリードする 医師養成プログラム	名古屋大学大学院医学 系研究科	2016/12/20
3		医師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者の業務指針および養成のた めの	名古屋大学大学院医学 系研究科	2020/8/1
4		薬剤師	常勤	専従(8割以上)	平成30年度第1回医療安全管理者 養成研修会	一般社団法人医療の質・ 安全学会	2018/9/1
5		看護師	常勤	専従(8割以上)	2020年度医療安全管理者養成研修会	一般社団法人医療の質・ 安全学会	2021/1/11
6		看護師	常勤	専従(8割以上)	平成30年度第2回医療安全管理者 養成研修会	一般社団法人医療の質・ 安全学会	2018/11/3
7		看護師	常勤	専従(8割以上)	2020年度医療安全管理者養成研修会	一般社団法人医療の質・ 安全学会	2021/1/11
8		その他	常勤	専従(8割以上)			
9		その他	常勤	専従(8割以上)			
10		その他	常勤	兼任(5割未満)			
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

■上記一覧において「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

	職種
例	臨床工学技士(上記リスト6番)
1	システムエンジニア(上記リスト8番)
2	弁護士(上記リスト9番)
3	総務課専門員(上記リスト10番)
4	
5	

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		地域連携・患者相談センター			
電話	直通				
	代表	052-741-2111	(内線)		